

グローバル地域創生支援を目指すジャパンリーダー能力開発養成プログラム（農学学位プログラム）

専門基礎科目_共通科目（グローバル地域創生支援を目指すジャパンリーダー能力開発養成プログラム（農学））

| 科目番号 | 科目名 | 授業方法 | 単位数 | 標準履修年次 | 実施学期 | 曜時間 | 教室 | 担当教員 | 授業概要 | 備考 |
|---------|----------------------------|------|-----|--------|-------|------|--------|------------|---|---|
| OBNM903 | ジャパンリーダーエンバワメント演習 | 2 | 2.0 | 1 | 秋ABC | 木7,8 | 生農G501 | JLEP運営委員教員 | プログラム参加の学生が共通の理解を醸成し、個々の研究課題との位置付けを認識することを目的とする。SDGsのもと、地域資源の可塑性の維持と持続的利活用による世界の存続の基盤であり、グローバル地域創生支援に繋がることの基盤を総括する。世界レベルで持続的発展は、相互依存となっていることの理解を深め世界規模課題について、多様な方向性と施策を議論する。特に、日本に関わる事例をとりあげ、日本国内の地域創生と日本産業の海外での事業について共に、異なる人材が多様性を持って協働する必要性について、課題の理解を深める。学生個々の深い研究課題と関連付けつつプログラム参加学生が幅広い知見の理解を醸成させる。 | 英語で授業。 対面 Face to face |
| OBNM904 | ジャパンリーダーエンバワメントインターンシップ I | 3 | 1.0 | 1 | 春ABC | 応談 | | JLEP運営委員教員 | ジャパンリーダーエンバワメント演習による基礎理解ののち、初年度第2学期(秋入学なので通常春学期)より、学生が個別に地域資源の持続的利活用によるグローバル地域創生支援を目指すジャパンリーダー能力開発養成プログラムに関連課題について調査課題を起案設定し、課題調査あるいはインターンシップあるいは両方については実施し、報告会にて報告を行う。特に、筑波大学協力組織の支援に基づき、日本国内での地方調査あるいはインターンシップあるいはその両方を勧奨する。調査のための旅費等は、大学の派遣資金や外部資金による支援を行う。 | 英語で授業。 対面 Face-to-face |
| OBNM905 | ジャパンリーダーエンバワメントインターンシップ II | 3 | 1.0 | 2 | 秋ABC | 応談 | | JLEP運営委員教員 | 先行のジャパンリーダーエンバワメントインターンシップ Iを必修として、これを履修後、日本社会の理解深化のための日本の地域社会での地域資源と地域創生に関わる活動を提案、実施及び報告する。 | 英語で授業。 対面 使用言語：英語及び日本語 |
| OA00315 | 地球規模課題と国際社会：社会問題 | 1 | 1.0 | 1 - 5 | 夏季休業中 | 集中 | | 渡邊 和男 | 国連が提起した「持続可能な開発目標 (SDGs)」に密接に関わる国際社会が直面する課題を理解し、大学院生各人に国際社会の一員としての自覚を誘起することで、高等教育を受けた者が果たすべき役割と責任について熟考させることを目的とする。 当科目は「持続可能な開発目標 (SDGs)」を地域自立と振興の観点から全て網羅する課題である「社会問題」について取り扱う。 発展と持続性に関し、天然資源、環境保全、及び経済発展を軸として、国家としてのガバナンス、国家間の懸案事項、ボーダーレス社会での“歪み”、非政府組織や先住民の存在によるグローバルルートでの課題対応をグローバルに概論する。 | This course deals with the international societies facing social challenges. 英語で授業。 その他の実施形態 Educational goal is aimed at nourishing highly motivated individuals who wish working for solving global issues in multinational organizations such as UN, governments and global companies |